

令和5年度 事後評価シート

【事務事業シート（政策的経費）】

1	当初	事 項	乳用牛生涯乳量向上事業費								予算主管課		畜産課	
		事 業 概 要	公共牧場等を活用した子牛育成期の管理強化やICT機器を活用した繁殖管理を支援することにより、生乳の生産期間を延ばして乳用牛の生涯乳量を向上させ、本県酪農生産基盤の維持・強化を図る。								始期		R4	
											終期		R6	
	K P I	搾乳牛1頭あたりの年間乳量増加率(R3年度比)												
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度			
		時点・期間	R4年度		時点・期間	R5年度		時点・期間	R6年度		時点・期間			
		現状値	2	%	目標値	2 %		目標値	3 %		目標値	%		
					実績値	0.45 %		実績値	%		実績値	%		
					達成率	22.50 %		達成率	%		達成率	%		
	コ ス ト			最終現計予算額	8,399 千円		最終現計予算額	千円		最終現計予算額	千円			
決算額				7,396 千円		決算額	千円		決算額	千円				
5 年 度		要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。） R5年度は記録的な猛暑の影響により乳量が伸び悩んだため、実績値はR3年度比0.45%の増とKPI目標値に届かなかった。											
			総括（事業最終年度の場合、要記入。）											
	見直し方向性	改善	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） R5年度は記録的な猛暑の影響により目標未達成となったが、全国のR3年度比の年間乳量増加率が△0.69%と減少していることを考慮すると、一定の成果が得られていると考えられる。R6年度は、執行の中でより耐暑性の高い精液の活用など暑熱対策にも留意し、着実に1頭当たりの乳量を増加させ、KPIの達成につなげる。											
2	当初	事 項	地産地消飼料増産対策事業費								予算主管課		畜産課	
		事 業 概 要	飼料生産組織の育成や飼料生産技術の向上、水田を活用した耕畜連携飼料の増産や、放牧の推進及び食品残さの飼料化を推進し、自給飼料の総合的な確保に取り組む。								始期		H17	
											終期			
	K P I	飼料作付面積増加率												
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度			
		時点・期間	R4年度		時点・期間	R5年度		時点・期間	R6年度		時点・期間	R7年度		
		現状値	1	%	目標値	2 %		目標値	3 %		目標値	4 %		
					実績値	10.8 %		実績値	%		実績値	%		
					達成率	540.00 %		達成率	%		達成率	%		
	コ ス ト			最終現計予算額	5,740 千円		最終現計予算額	千円		最終現計予算額	千円			
決算額				3,260 千円		決算額	千円		決算額	千円				
5 年 度		要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）											
			総括（事業最終年度の場合、要記入。）											
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績は想定以上の成果が出ており、6年度以降も、飼料価格の高止まりにより、生産コスト削減に最も有効な自給飼料生産が拡大し、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。											

3

当初

事項	愛媛あかね和牛産地化支援事業費										予算主管課		畜産課	
事業概要	和牛の肉質や肉量に影響を与える遺伝形質を評価する技術を活用したあかね和牛子牛の品質改善等の取組みから、より愛媛あかね和牛に適した子牛生産体制への転換を促し、愛媛あかね和牛の更なる産地化とブランド力強化の支援を行う。										始期		R5	
											終期		R7	
K P I	あかね和牛出荷頭数													
	KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度				
	時点・期間	R4年度		時点・期間	R5年度		時点・期間	R6年度		時点・期間	R7年度		時点・期間	
	現状値	148 頭		目標値	184 頭		目標値	192 頭		目標値	200 頭		目標値	頭
				実績値	136 頭		実績値	頭		実績値	頭		実績値	頭
				達成率	73.91 %		達成率	%		達成率	%		達成率	%
	コ ス ト			最終現計予算額	12,855 千円		最終現計予算額	千円		最終現計予算額	千円		最終現計予算額	千円
決算額				10,846 千円		決算額	千円		決算額	千円		決算額	千円	

5年度

要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。） 長引く配合飼料価格の高騰や牛枝肉価格の低迷等による和牛繁殖基盤の縮小などの影響から生産頭数が伸び悩み、KPIの目標値に届かなかった。													
	総括（事業最終年度の場合、要記入。）													
見直し方向性	改善	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度の目標達成率が伸び悩んだことに加え、配合飼料価格の高止まりといった畜産経営の厳しい状況を踏まえると6年度も同様の状況が見込まれる。このため、令和6年度の執行から県内優良母牛等の活用によるあかね和牛生産基盤の強化などを行い、更なる成果の向上につなげるとともに、事業の成果を注視しながら、この見直しを令和7年度予算へ反映する予定としている。												

4	当初	事 項	畜産新技術等導入支援事業費										予算主管課		畜産課	
	事 業 概 要		本県畜産経営の収益力や生産性向上を図るため、AI等を活用した家畜の繁殖管理技術などの新技術等の導入に必要な施設の整備や改修等および試験的な導入に係る経費を支援する。										始期		R4	
													終期		R6	
	K P I	新技術等導入農家の収益伸び率														
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度			R 6 年 度			R 7 年 度			R 8 年 度		
		時点・期間	R4年度		時点・期間	R5年度		時点・期間	R6年度		時点・期間			時点・期間		
		現状値	R4年度導入 農家1%増 見込(対R3 年度比)	% 	目標値	2 %		目標値	3 %		目標値	%		目標値	%	
					実績値	2.4 %		実績値	%		実績値	%		実績値	%	
					達成率	120.00 %		達成率	%		達成率	%		達成率	%	
		コ ス ト			最終現計予 算額	27,000 千円		最終現計予 算額	千円		最終現計予 算額	千円		最終現計予算額	千円	
決算額	20,511 千円				決算額	千円		決算額	千円		決算額	千円				
5 年 度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）														
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）														
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 新技術の導入により収益性が向上しており、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。今後も継続して事業を実施する。													

7

12月 補正 後 （追 加）	事 項	酪農・畜産飼料価格高騰対策緊急支援事業費								予算主管課		畜産課	
	事 業 概 要	飼料価格の高騰が長期化しており、畜産農家は想定を遙かに超えた厳しい経営環境に直面し、経営存続の危機に陥っていることから、本県畜産基盤を守るため、経営を維持し、国産飼料利用拡大や生産性向上等に継続して取り組む意欲ある農家を支援する								始期		R5	
										終期		R6	
	K P I	飼料高騰対策支援を受けた畜産農家の経営の継続率											
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度		
		時点・期間	R4年度		時点・期間	R5年度		時点・期間	R6年度		時点・期間		
		現状値	－	%	目標値	100 %		目標値	100 %		目標値	%	
					実績値	100 %		実績値	%		実績値	%	
					達成率	100.00 %		達成率	%		達成率	%	
		コ ス ト			最終現計予算額	516,769 千円		最終現計予算額	千円		最終現計予算額	千円	
決算額	499,959 千円				決算額	千円		決算額	千円				
5 年 度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）											
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）											
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績は想定どおりの成果が出ており、6年度以降も現状の二ーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。										